

8/16
52頁

平和したくてふるふる

若者戦争法案反対

札幌



「戦争したくなくてふるふる」と書かれたプラカードを掲げデモ行進する参加者。15日、札幌市内。

戦後70年の終戦記念目を迎えた15日、札幌市で戦争法案に反対するデモ「平和したくてふるふる」が、おこなわれ、M.O.がおこなわれ、途中雨が降るなか500人(主催者発表)が参加しました。「当事者だからふるふる」「無関心こそ最悪の事態」とコールしながら、ピアガールデンにきわう大通公園を一周しました。

主催は、若者たちでつくる「戦争したくなくてふるふる」です。子どもを連れた参加者が目立ち、デモには沖繩や東京から駆けつけた人、大阪やカナダの大

学に通う道内出身の学生もいました。出発前の集会で4人の学生が平和への思いをスピーチ。沖繩県名護市から参加した大学生、小波津義徳さん(19)は「平和は政治家がつくるのではなく、僕たちがつくるものです」と発言。デモ中はマイクを握り、コールしました。休みを利用して帰省中だという福井隼一さん(19)は、北海道江別市出身。大阪の大学に通っています。「戦争に向かおうとして今の政治をなんとかしたい。声をあげ続けて戦争法案を廃案にして、安倍首相には早く辞めてもらいたい」と語りました。



戦争法案に反対する街頭宣伝に集まった人たち。14日、京都市

京都

京都市下京区の京都タワー前で14日夜、戦争法案に反対する街頭宣伝が行われました。関西の学生でつくる「SEALDS KANSAI(シールズ関西)自由と民主主義のための関西学生緊急行動」が毎週金

曜日に取り組んでいるものの、1000人を超える人が集まりました。関西学院大学2年の鈴木詩穂さん(19)は「本当に止めたいなら、訴えたいことは自分の言葉で発信し続けることです」と主張。「さまざまな手段で私たちが黙ろそうとする政府に、自分の言葉を紡ぎ続けるこ

とで抵抗しよう」と訴えました。日本人初の宇宙飛行士で京都造形芸術大学教授の秋山豊寛さんと、立命館大学の君島東彦教授がスピーチ。秋山さんは「自衛隊の人たちを死ぬような現場に追い込む。これは殺人だ。そんなことを認めるわけにはいかない。おかしいことに声を上げようじゃないか」と呼びかけました。民主党、日本共産党の国會議員が発言。日本共産党から井上哲士参院議員が訴えました。街頭宣伝に先立ち、戦争法案に反対する若者らと学生が意見交換しました。